

職員視察研修、タイ・メーサイ市で交流

達生堂グループは4月12日から18日の日程で、タイ北部に位置するメーサイ市を訪問しました。グループから、城西病院やヒューマンハウス、すばるなどの職員ら約40人が参加し、メーファールワン財団やメーサイ市、メーサイ病院などを訪問し、メーサイ市民たちとの交流を深めました。

今年は、公益財団法人 茨城国際親善厚生財団 (IIFF) とタイ王室のメーファールワン財団の交流がスタートして15周年の節目の年に当たります。この交流を基礎に、城西病院と国立メーサイ病院が姉妹病院となり、結城市とメーサイ市が姉妹都市を結び、交流の輪が広がっています。

タイでは、4月13日から15日が旧正月に当たります。13日に一行は、市役所近くで開かれたタイの正月行事に参加した後、メーサイ市役所とメーサイ病院、すばる日本語学校を視察。14日にはメーファールワン財団が運営する麻薬博物館やドイトン庭園などを視察しました。

メーサイ市役所ではサライヨン・スリサムート市長らの歓迎を受け、IIFFを通して贈ったはしご車を視察。火災現場やイベントなどで活躍している姿が紹介されました。

メーサイ病院ではスラ・クンコンカーバン院長らが歓迎。日本に視察に訪れた看護師たちも集まって



はしご車を前に記念写真

タイの民族舞踊でおもてなし



メーサイ病院の新病棟を視察する一行



タイ王室の博物館を見学

もてなしていただきました。メーサイ病院も城西病院と15年にわたって交流が続いており、3年前に新病棟が完成、年間22万6千人を超える外来患者が訪れ、うち約4万3千人がミャンマーから訪れるなど、国際的な医療機関として活躍しています。

メーファールワン財団では、会長のディスナダ・ディスクル殿下（愛称クンチャイ殿下）や財団CEOのプアングロイ・ディスクル妃殿下（愛称クンイン妃殿下）から歓待、メイファロンガーデンでタイの民族舞踏を披露するなどして厚くもてなしていただきました。

メーファールワン財団は、麻薬撲滅を目的にメーサイ市を中心としてドイトンプロジェクトを展開。かつてケシを栽培していた少数民族の人々が、コーヒーやマカデミアナッツなどの栽培、観光などで収入を得ることで麻薬を撲滅する活動を続けてきました。クンチャイ殿下から、タイ国内での麻薬栽培はほとんど姿を消しましたが、メーサイ市で国境を接するミャンマー、ラオスでは依然として麻薬栽培が行われている現状などを説明していただきました。

平成29年4月21日

© Tasseido group

メーファールワン財団とIIFFが交流15周年の節目